ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
													record 2006; 81: 241-242	WHOは2006年6月13日までに100名の肺ペスト疑い患者がコンゴ共和国Oriental州Ituri地区で発生し、うち19名が死亡したという報告を受けた。現在のところ患者数は不明であるが腺ペスト患者の発生も報告されている。Ituri地区は世界中で最もペストが発生することで知られており、年間約1000例報告されている。
												HTLV	16(30) HIV/STIs	2005年に英EnglandおよびWalesにおける新規HTLV診断は73例で、男性22例、女性51例であった。うち、63例がHTLV-1型、4例がHTLV-2型、1例が両方に感染していた。46例について詳細情報を収集した医師報告を受け取り、予想される感染経路として、3例(9%)が輸血であった。
												HIV	16(30) HIV/STIs	英国におけるHIVの四半期最新情報(2006年6月末までのデータ)。1982年にサーベイランスが始まって以来2006年6月末までにHIV診断数は80556例報告された。感染経路別、性別、診断年別のデータを示している。輸血または血液因子製剤による感染は2005年度は男性7例、女性9例、2006年度は6月末までに男性3例、女性2例である。
														インドstate for health and family welfareの長官は、5つの州においてチクングンヤの高発生が報告されていると、発表した。Andhra Pradeshで66109例、Karnatakaで543286例、Maharashtraで202114例、Tamil Naduで41211例、Madhya Pradeshで43784例である。
												ウイルス感染	月8日	トルコ保健省は、2006年1月1日~8月4日のクリミア-コンゴ出血熱確定症例は242例(致死率8.3%)であったことを報告した。2006年6月30日以降症例92例および死亡9例が新たに報告された。死亡例のうち1例は治療に当たっていた医療従事者であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
83	2006/09/22	60474	わかもと製 薬	ウロキナーゼ	ウロキナー ゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無	灰白髄炎	MMWR Weekly 2006; 55: 458-462	2005年1月から2006年3月までの世界的な野生型ポリオウイルス伝播撲滅の進行状況について述べた。World Health Assemblyによりポリオ撲滅運動が開始された1988年にはポリオ土着国は125ヶ国であったが、2005年には4ヶ国(アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタン)に減少した。以前ポリオが根絶していたアジア、アフリカの22ヶ国で2003年以降に再感染したが、2005年7月以降は8ヶ国のみとなった。インド、パキスタンでも2004年に比べほぼ半減し、根絶に近づいている。
												コレラ	epidemiological	2006年1月28日から3月20日にスーダン南部全域で死亡 例238例を含む急性水様性下痢患者8923例が報告された。最も患者数が多いJubaとYei では改善がみられているが、他の地域で稲葉型コレラと確定診断された症例もあり、アウトブレイクの監視が重要である。
												灰白髄炎		ナミビアでここ10年以上で初めてのポリオのアウトブレイクが発生した。1例目は2006年5月6日に発見され、確定された。2006年6月21日までに15例が死亡し、症例数は96例に急速に増加した。コンゴで2例、ニジェールで3例、野生型ポリオウイルスによるポリオの報告があり、輸入例であった。
												コレラ	ProMED- mail20060728.2086	アンゴラでコレラが15番目の州に拡大し、死亡者は2089 例となり、症例数は5万例を超えたとWHOが2006年7月24 日に発表した。2006年2月13日からの症例数である。
84	2006/09/22	60477	北里研究 所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程		無	無			
85	2006/09/22	60478	北里研究 所	コレラワクチン	ウシ心臓抽出物	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
86	2006/09/22	60479	北里研究 所	コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混 合ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージー ランド、オー ストラリア	製造工程	無	無	無			

ΙD	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT) 出典	概要
87	2006/09/22	60480	北里研究 所	コレラワクチン	ビーフエキ ストラクト	ウシ筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無		
88	2006/09/22	60481	北里研究 所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混 合ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無		
89	2006/09/22	60482	北里研究所	①コレラワクチン ②沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ③~⑤沈降破傷風トキソイド ⑥、⑦沈降精製百日せきジフテリア破傷	ペプトン	ウシ乳	①②③⑦中 国、ポーラ ンド ④⑤⑥中 国、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無		
90	2006/09/22	60483	北里研究 所		ラクトアルブ ミン水解物	ウシ乳	オーストラリ ア、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無		
91	2006/09/22	60484	北里研究 所	乾燥弱毒生風しんワクチン	エリスロマイ シンラクトビ オン酸塩	ウシ乳	ニュージー ランド、カナ ダ、米国	製造工程	無	無	無		
92	2006/09/22	60485	北里研究所	②乾燥弱毒生風しんワクチン	ウシ胎児血 清、新生仔 牛血清	ウシ血液	①③ニュー ジーランド ②オースト ラリア	製造工程	無	無	無	k	
93	2006/09/22	60486	北里研究 所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	乳糖水和物	ウシ乳	ニュージー ランド	添加物	無	無	無		
94	2006/09/22	60487	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	コレステロー ル	ヒツジ毛	オーストラリ ア、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無		

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正用置	感染症(PT)	出典	概要
95	2006/09/22	60488	北里研究 所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ヒツジ血清	ヒツジ血液	米国	製造工程	無	無	無		Babban dikabadia bibbabi	
96	2006/09/22	60489	北里研究 所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	トリプシン	ブタ膵臓	米国、カナ ダ	製造工程	無	無	無			
97	2006/09/22	60490	北里研究所	①②インフルエンザHAワクチン ③インフルエンザワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	①②日本③ 不明	製造工程	無	無	無			
98	2006/09/22	60491	北里研究 所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初 代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米国	製造工程	無	無	無			
99	2006/09/22	60492	北里研究 所	日本脳炎ワクチン	マウス脳乳 液	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
100	2006/09/22	60493	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	米国	製造工程	無	無	無			
101	2006/09/22	60494	北里研究 所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降破傷風トキソイド	ウマ脱繊維素血液	ウマ血液	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
102	2006/09/22	60495	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシリポプロ テイン	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	有	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、VCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病		マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM、MV、VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全でに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	米国で見つかったBSE陽性ウシ2例は、ヨーロッパで見られる稀なBSE株由来のものであった。ロンドンの国際学会でフランスとイタリアの研究者は、検出されにくく、主に高齢の家畜に影響を与える2種類の稀なBSE株を報告した。フランスの研究者は、2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランス、スウェーデン、ポーランドで見られる少数のBSE異型株と同一であることを明らかにした。
103	2006/09/22	60496	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	 有	無		異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393–398	60495に同じ
1								 				BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
104	2006/09/22	60497	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清ア ルブミン	 ウシ血液	米国、カナ ダ	製造工程	有	無	有		Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
1	1											異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ

ΙD	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
10	2006/09/22	60498	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリ ン	ウシ膵臓、ヒ トインスリン	米国、カナ ダ、オースト ラリア、 ニュージー ランド	製造工程	有	無	有	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
\ <u></u>												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495(こ同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
100	6 2006/09/22	60499	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ蛋白加 水分解物	ウシ脾臓、ウ シ血液	米国	製造工程	有	無		異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
10	7 2006/09/22	60500	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マブ(遺伝子 組換え)	マウス脾臓細細胞と骨髄にした細胞にという場所を融にした過伝子を導入した細胞株	ダ、オースト ラリア、 ニュージー	有効成分	有	無	有	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
						<u>Na incidente de destra la dest</u> ente incid						BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
108	2006/09/22	60501	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来細胞	マウス骨髄腫		製造工程	有	無	有		Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
													2006年8月25日	60495に同じ
109	2006/09/22	60502	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	凍結乾燥注 射剤	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	フェルト・ヤコ ブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393–398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
110	2006/09/22	2 60525	武田薬品 工業	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
11	2006/09/25	60436	メルク製薬	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリ ンナトリウム	ブタ小腸	中国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分文	狀 症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
112	2006/09/26	60457	光製薬	ダルテパリンナトリウム注射液	ダルテパリ ンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国	有効成分 有	無	無	口蹄疫		中国農業局は、青海省でアジア1型口蹄疫が発生したと発表した。発生した農場のウシ19頭とブタ2頭が省獣医局により処分された。病気は2006年3月4日に報告され、口蹄疫と確定されたが、すぐに発生地域の消毒と隔離、ならびに感染するおそれのある全ての動物への接種が命令された。
											レンサ球菌感 染	mail20060411.1082	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死的経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。ブタ連鎖球菌(Streptococcussuis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方が良い。
											口蹄疫	2006年5月4日	中国における口蹄疫のFollow-up report No. 4(2006年3 月29日から4月30日まで)。病因の同定-口蹄疫ウイルス セロタイプアジア1。新規アウトブレイクの詳細-青海省 Haiyan郡。疑い例34例、症例4例。
											口蹄疫		中国青海省でこの2ヶ月で2回目の口蹄疫のアウトブレイ クが起こった。2006年4月26日、4頭の牝牛がアジア1型口 蹄疫を発症し、確定された。アウトブレイクを封じ込めるた めの緊急手段がとられている。
											レンサ球菌感 染	e151	2005年7-8月に中国四川省で発生したStreptococcus suis serotype 2(SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。よい感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。

ΙD	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献		適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1643–1649	IV型HEVについてヒトとブタ宿主との関係を調べるため、各々のウイルス保有率およびウイルスの遺伝的性質を調べ、また養豚場と感染のリスクとの関係を評価した。中国東部の2つの養豚地区では、ブタ9.6%、健常人0.3%で大便中からHEVが検出され、IV型サブタイプ2つが両者に共通していた。養豚に従事するヒトは他の職業のヒトより感染リスクが74%高く、養豚場の下流の住民は上流の住民より感染リスクが29%高かった。IV型HEVはブタからヒトへ自由に感染すると考えられる。
														2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気のために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌はtuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、ef.およびslyに対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。
113	2006/09/26		ZLBベー リング	①人血清アルブミン ②人血液凝固第XIII因子 ③フィブリノゲン加第XIII因子	人血清アルブミン	ヒト血液	ツ、オースト リア	①有効成分 ②、③添 加物	 有	有	無		Emerg Infect Dis 2006; 12: 151–154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	78: 693–701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusビリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示された。感染がヒトに広くみられることが明らかになった。
114	2006/09/26	60506	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌莢 膜ポリサッカ ライド		米国	有効成分	無	無	有			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
115	2006/09/26	60507	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	リボヌクレ アーゼ	<u></u> ウシ膵臓	米国、カナ ダ	製造工程	無	無	有			
116	2006/09/26	60508	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	デオキシリ ボヌクレアー ゼ	ウシ膵臓	米国、カナ ダ	製造工程	無	無	有			
117	2006/09/26	60509	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	トリプシン	ウシ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	有			
118	2006/09/26	60510	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	フュージョン 培地	ウシ心臓、ウシ骨格筋、ウシ脂肪細胞、ウシ脂合組織 ウシ結合組織	ダ、オースト	製造工程	無	無	有			
119	2006/09/26	60511	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ウサギ脱繊 維血液	ウサギ血液	米国、カナ ダ	製造工程	無	無	有			
120	2006/09/26	60512	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	有			
121	2006/09/27	60475	扶桑薬品 工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナト リウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感 染	2006; 80(S): 297	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
												E型肝炎	2006; 52(2): 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置		出典	概要
122	2006/09/27	7 60514	日本臓器 製薬	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚 抽出液	イルス接種	ワクシニアウ イルス接種家 兎炎症皮膚	日本	有効成分	無	<u>無</u>				
123	2006/09/27	7 60515	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚 抽出液	カゼイン性ペ プトン	ウシ乳	ポーランド、 中国、オー ストラリア、 ニュージー ランド	製造工程	 無	無	無			
124	2006/09/27	7 60516	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚 抽出液	カゼイン性ペ プトン	ブタ膵臓	日本、カナダ	製造工程	無	無	無			
125	2006/09/27	7 60517	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚 抽出液	 漿尿膜	<u></u> 発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
126	2006/09/27	60518	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚 抽出液	ウサギ皮膚	ウサギ	日本	製造工程	無	無	無			
127	2006/09/27	7 60519	ベネシス	①②ポリエチレングリコール処理人免疫 グロブリン ③人免疫グロブリン	人免疫グロ ブリンG	人血液	①日本2③ 米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87–93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												パルボウィル ス		医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献 狙	E例 包	更正 使用 計置	感染症(PT)	出典	概要
											ŀ	ブ病	Arbeitskreises	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
											1		ProMed20060225- 0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチケングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチケングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
													78: 693–701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。RT-PCR試験を実施した112血清検体中11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関連があった。
												肝炎	193: 1089–1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫出光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染		サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的変化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPSc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38 804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、VCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスP:P遺伝子の置換によってビトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM、MV、VV)のP:P蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはビトの3つの系全でに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血 友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その 結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)が HEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者 におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報 告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能 性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率 については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られな かったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高 かった。

ΙD	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												巨型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Forelに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイピーに感染させたハムスターの 血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間 の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢 でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染して いるが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学 的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的 早期診断を期待させる。
												パルボウィル ス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のパルボウイルスB19遺伝子型2 による汚染は報告されていないので、市販されている21 製剤の202ロットを、パルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝 子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1の DNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、 1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出 された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、そ の全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
128	2006/09/27	60520	ベネシス	①②③人血清アルブミン ④乾燥濃縮人血液凝固第WI因子 ⑤乾燥濃縮人血液凝固第IX因子	人血清アル ブミン	人血液	①2 ④ 5日 本 ③米国	①②③有 効成分 ④⑤添加 物	有	無		異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	60519に同じ

ID:	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分了	⋷献:	症例 (適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
													Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60519に同じ
												パルボウィル ス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	60519に同じ
												フェルト・ヤコ ブ病	Robert Koch Institut / Voten des Arbeitskreises Blut / Votum 33	60519に同じ
												ウイルス感染	ProMed20060225- 0619	60519に同じ
													78: 693–701	60519に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60519に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60519に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60519に同じ
												フェルト・ヤコ	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38 804.511644.55	60519に同じ

ΙD	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393–398	60519に同じ
}												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60519に同じ
\ <u></u>												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60519に同じ
												フェルト・ヤコ ブ病	2068-2074	60519に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60519に同じ
												ス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60519に同じ
129	2006/09/27	60521	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第㎞因子	血液凝固第 WII因子	人血液	日本	有効成分	有	無		フェルト・ヤコ ブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	60519に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87–93	60519に同じ
												パルボウィル ス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	60519に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												フェルト・ヤコ ブ病	Robert Koch Institut / Voten des Arbeitskreises Blut / Votum 33	60519に同じ
 												ウイルス感染	ProMed20060225- 0619	60519に同じ
·												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60519に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60519に同じ
													2005; 34(S1): 333	60519に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60519に同じ
												フェルト・ヤコ	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38 804.511644.55	60519に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393–398	60519に同じ
ļ												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60519に同じ

ΙD	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献		適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
National and												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60519に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60519に同じ
													Science 2006; 313: 92-94	60519に同じ
												パルボウィル ス	2004; 92: 838-845	60519に同じ
13	2006/09/27	60522	ベネシス	人血清アルブミン 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ 人ハプトグロビン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	中国	製造工程	有	無			Psychiatry 2006; 000: 1-3	1970年~2003年に上ト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45~177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、ブタ硬膜片レシーピエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。
13	1 2006/09/28	60523	三菱ウェ ルファーマ	ヘパリンナトリウム		ブタの小腸粘 膜	中国、アメリカ、カナダ、 オーストラリア		有	無	無	口蹄疫	Information 19(18) 2006年5月4日	中国における口蹄疫のFollow-up report No. 4(2006年3月29日から4月30日まで)。病因の同定-口蹄疫ウイルスセロタイプアジア1。新規アウトブレイクの詳細-青海省Haiyan郡。ウシ疑い例17例、症例4例、処分17例。ヒツジ/ヤギ疑い例14例、処分14例。ブタ疑い例3例、処分3例。
												E型肝炎	193: 1643-1649	IV型HEVについてヒトとブタ宿主との関係を調べるため、各々のウイルス保有率およびウイルスの遺伝的性質を調べ、また養豚場と感染のリスクとの関係を評価した。中国東部の2つの養豚地区では、ブタ9.6%、健常人0.3%で大便中からHEVが検出され、IV型サブタイプ2つが両者に共通していた。養豚に従事するヒトは他の職業のヒトより感染リスクが74%高く、養豚場の下流の住民は上流の住民より感染リスクが29%高かった。IV型HEVはブタからヒトへ自由に感染すると考えられる。

ΙD	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用置	感染症(PT)	出典	概要
132	2006/09/28	60524	化学及血 清療所		抗破傷風人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染		日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月〜2003年9月、2005年1月〜7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												ウイルス感染	Health Agency of	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチケン ガンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの 患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに 発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告され ている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22 日までの間に公式に報告されたチケングンヤ感染例は 3877例であるが、実際には255000例に達すると思われ る。インドでは2005年12月以来、チケングンヤウイルスの アウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324 例に達する。
133	2006/09/28	60746	伊藤ライフサイエンス	パルナパリンナトリウム	パルナバリ ンナトリウム	ブタ腸粘液	アルゼンチ ン	有効成分	有	無 無	無	レンサ球菌感 染	ProMED20060412- 0060 Boston.com 2006年 4月11日 PLoS Med 3(5): e218 2006年4月11日	
												炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、 19(20) 2006年5月 18日、19(28) 2006 年7月13日	60420に同じ

ID	E.7.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成 分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
													炭疽	ProMED- mail20060730.2107 ProMED- mail20060802.2141 ProMED- mail20060806.2195 ProMED- mail20060808.2228 ProMED- mail20060811.2257	60420に同じ
13	4 200	06/09/29	60430	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第‴因子	乾燥人血液 凝固第1220 子	人血漿	米国	有効成分	有	有	#	鳥インフルエン ザ	1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12 月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT- PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
13	5 200	06/09/29	60431		乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複 合体	乾燥人血液 凝固因子抗 体迂回活性 複合体	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエン ザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041– 1043	60430に同じ
					乾燥濃縮人血液凝固第咖因子	人血清アル ブミン		米国					Ψ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041– 1043	60430に同じ
					乾燥人血液凝固第IX因子複合体	乾燥人血液 凝固第区因 子複合体			有効成分				鳥インフルエン ザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041– 1043	60430に同じ
13	8 20	06/09/29	60434	バクスター	乾燥人血液凝固第区因子複合体	ヘパリンナト リウム	ブタ腸	中国	添加物	無	有	無			